

THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



2007～2008年度 国際ロータリー ウィルフレッドJ.ウィルキンソン会長テーマ

ROTARY SHARES ロータリーは分かちあいの心

創立 1954年3月8日
承認 1954年3月30日

例会日時 毎週月曜日
12:30～13:30
例会場 刈谷市新栄町3の26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL (0566)22-2111
FAX (0566)25-2111
メール kariyarc@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 橋本 恭典
幹事 鈴木 文三郎
会報委員長 酒部 正博

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第2589回例会プログラム

[当年度=31回目；当月=1週目]

2008年（平成20年）4月7日（月）

花見例会

於 松楓閣

1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉

- 11:50 1. 点鐘……〈会長〉
2. 開会宣言
3. ロータリーソング斉唱……奉仕の理想
4. 会長挨拶
5. 幹事報告
6. 出席報告
7. ニコニコボックス報告
8. 諸事ご案内……親睦活動委員長
9. 次週並びに次々週のプログラムの予告
(4/14)……クラブフォーラム（雑誌委員会）
講師 日本舞踊西川流師範 西川 まさ子 様
(紹介者 加藤 繁則 会員)
(4/21)……卓話
講師 青少年交換学生
リンダ・ヨラーさん
(スイス・東知多RC)
(紹介者 野村紀代彦 会員)
10. 点鐘……〈会長〉
11. 閉会宣言

2. 花見家族会……………〈司会：親睦活動委員会〉

- 12:00 乾杯……………〈直前会長 盛田 豊一〉
食事・歓談
13:30 出発

出席

会員総数 93名 出席免除 20名
出席義務者+免除者の内例会出席者 77名
欠席 26名 出席率 66.23%
前々回（3/25）の修正出席率 100%

会長あいさつ

橋本 恭典



昨年の花見例会は、3月初めの開花予想では、例年より10日も早く咲くということでしたが、盛田直前会長の念力が実を結び、大方の予想を裏切って、ぴったり例会日に満開となりました。私は直前会長のような念力がございませんので、ここ松楓

閣でおいしいお昼を頂いたあとは、満開の見頃の所へ行けばよいと考え、本日のバスツアーとさせて頂きました。花見の目的地も示さず、ご案内を差し上げては失礼と存じましたので、とりあえず名古屋城とさせて頂きました。温暖化現象が言われている昨今、この地方の桜は、今年は例年とはほぼ同じ時期の3月下旬から4月上旬が見頃の所が多くなっております。

桜の花見にお酒は付き物ですが、「なぜ」なんだろうと調べました。いや調べなくとも、どなたかが花見例会で解説をされてお見えとは存じますが、少しだけお聞きください。

当クラブではどういう訳か最近では、ぶどうが原料のお酒が好まれますが、桜の花見の場合はお米でできたお酒です。農耕民族の日本人は、桜の花の咲く時期により、稲を植える時を知らされ、また桜の花の散り具合をみて、その年の米のでき具合を占っておりました。暦の代わりに使われた桜は、種蒔き桜、田打ち桜などと親しんで呼ばれていました。満開の桜のもと、神様にお酒などの奉げ物をして豊作を祈り、また、そのお下がり一杯やる習慣ができたので、桜の花見とお酒はワンセットになっております。

皆様には、今年の稲の豊作をお百姓さんになり代わって祈願して頂くため、今日はここではもちろんのこと、

桜の花の下でも一杯やって頂きたいと存じますが、お天気次第でバスの中になってしまうかもしれません。そうなった時は私の不徳の致すところでございます、ご容赦のほどを。

さて、お花見といえば日本の桜が世界を代表しているように思っておりましたが、私の部屋に掛かっているカレンダーでは、ワシントンのポトマックリバー河畔でもただ今、ソメイヨシノのお花見の真っ最中です。例年3月末頃から4月10日頃まで「桜まつり」が行われ、パレードや「桜の女王」が選ばれたり、様々な日本の文化紹介の行事が行われます。もともとは1912（明治45）年に、桜の苗木3,000本が日本から贈られ、それが育ったことでワシントンは桜の名所となりましたが、桜の寿命は50年と言われておりまして、現在はほとんど植え替えられたものですが、当時のものが、今でも125本生き残って花を咲かせています。

ただし、アメリカとかヨーロッパでは花見はありますがただ観賞するだけです。大勢の仲間と共に、飲食を共にしながら時を過ごすことは、日本だけの習慣のようです。やはり、満開の桜の下、八百万の神様にお供えものをして、豊作祈願をし、そのお下がり一杯やる習慣はいいですね。

また、上高地の名を世界に広めたイギリス宣教師ウォルター・ウェストンは日本人最良なのでしょう。うまいことを言ってくれておりますのでご紹介を。

「自然の美を愛するという、日本人の国民感情にとって、すばらしい贈り物は、毎月のようになにかの花が咲くことで、その季節の特定の花が最高の美しさになった時、それを眺める喜びを味わうためだけの目的で、全国民が花見に出かけるのである。このような花見の行楽は、日本にとっては正に、国民のお祭りというべきものになっている。このような花や風景を愛でる機会を持つことによって、自我を捨てて、優美なものを愛し、苦勞を忘れることのできる心境になるのだと言われている」なんて言ってくれております。本日はぜひ、自我を捨て、優美なものを愛でてくださいませよう、念じております。ありがとうございました。

